

新年にあたって

～社会福祉の原点を大切にした協議会であるために～

一般社団法人 京都市老人福祉施設協議会
会長 山岸 孝啓
 (嵐山寮うたの・ひろさわ)



新年明けましておめでとうございます。本年が皆様様にとりまして、よりよい一年となりますことをご祈念申し上げます。

日頃より当協議会の運営にあたりましてご理解とご協力を賜りまして、有難うございます。

昨年4月から会長職をさせていただいていますが、昨年は私たちの施設に直結する様々な動きがあり、当協議会、各施設は特に忙しかった1年でした。

まず第1の動きは、27年度介護報酬改定があり、過去2番目となる大きなマイナス改定率で厳しい経営を強いられています。改定の影響として約7割の特別



養護老人ホームが前年度と比較して減収である、ということ福祉医療機構がアンケート調査で報じています。施設の対応として、水道光熱費・委託費・人件費の見直しや削減を講じ、建て替えが必要になっているが今は見送る施設が多く、基本報酬の減額を補うために各種加算の取得に努力されている所がほとんどです。しかし、費用の抑制策には限界もあり、また固定費の削減は大きな成果にならず、加算獲得のために職員数増加が必要な場合もあり、人件費の問題も生じています。

第2の動きは、一億総活躍国民会議が介護離職ゼロで緊急対策を昨年11月に発表しました。聞いた時に、介護職員の離職対策かと誤解をした関係者が多かったと思います。2020年初頭までに介護サービスを利用出来ないで離職をする人をなくすと共に、特養等の入所が必要だが、自宅で待機している高齢者をなくすための「緊急対応」で、介護サービスの基盤の確保策です。これから特養はじめ7種類のサービスとサービス付き高齢者向け住宅を加え、約38万人分増やすというものを約50万人と大きく拡大しています。地方都市に行くと、50人定員の特養を30人分程増床して80人定員に変更することも考えられていますが、京都市内では現有敷地に増床する土地の余裕がなく、土地の確保が深刻な問題です。

第3の動きは、前記の2点との関連で介護職員の人材不足問題です。2025年までに全国で38万人が不足

して目標の253万人の確保が困難な問題です。京都府では、充足率が86.9%になる見込みで、京都市内は事業所数が多いので厳しい状況の覚悟が必要です。重労働であるが、繊細さ、優しさ、観察力、コミュニケーション能力等が、人の援助者として必要です。誰でも出来る仕事ではなくて、適性と如何に各施設として職員を磨き、福祉の精神と適正な技術の伝授、高齢者はじめ人を敬う心を基本にした職員の育成が必要です。人材の確保が難しい現在こそ、この業界に入職する職員に甘い言葉だけでなく、福祉・介護の仕事をきちんと丁寧に説明と指導をしていくことが人材確保と定着に不可欠です。

以上の動きを根底にして、会員施設共通の課題である福祉・介護人材の確保を重点課題で昨年より活動しています。福祉系各種養成機関との懇談を行うと共に、昨年より小中学校における福祉教育推進と施設との交流強化のために校長会で連携を呼びかけています。また、新たに市老協加入施設全体としての合同入職式を今年4月9日にハートメッセンジャーの職員も参加して行います。モチベーションアップと職員同士のつながりが深まることを目的としていますので、多数のご参加をお願いします。これらは、京都市保健福祉局長寿社会部と協働して行っています。

市老協として、社会福祉法人としての公益性を意識した運営を今年も行いたいと思います。社会貢献として高齢者すまい・生活支援モデル事業を京都市の委託事業として1年余りが経過しましたが、見守りと生活相談等のサービスを行い、実施に向けた基盤団体の京都市居住支援協議会と連携した事業は今年も大切にしていきます。生活に支援を要する人へのきめ細かな対応や主体性と自己決定の尊重、権利擁護を基本にした事業内容を社会福祉法人の集結した協議会として根底にします。これらの「社会福祉」の原点を常に意識した協議会を目指していきたいと思います。介護ロボットの導入促進やICT(コンピューターやインターネットに関連する情報通信技術)の活用での介護人材の負担軽減が国の方針ですが、そういう現在こそ、ソーシャルワークの重要性とコミュニケーション能力向上に力を入れたいと思います。

その他、新しい介護予防・日常生活支援総合事業(新総合事業)等への情報の共有化、研修の体系化の定着、医療や看護との連携強化、利用者一部負担額の原則2割負担の提案が財務省の財政制度分科会である等の対応等の山積する課題があります。これらの事に対応するには、全施設挙げての活動でないと大きな成果は表れません。今年度からの新たな組織機能の中で、活動をしていきますので、ご支援とご協力をお願い致します。



津止正敏教授記念講演

京都老人福祉学会によせて

一般社団法人 京都市老人福祉施設協議会
 副会長 **溝口 武美**
 (豊和園)

平成27年11月27日、京都テルサにおいて第13回京都老人福祉学会が開催されました。今回は、「2025年へ向けて 高齢者福祉・介護を考える」～現状を踏まえ、今後の10年間の取り組みの方向性を模索する～をテーマに、市老協・府老協の会員施設の職員を中心に、一般参加も含めておよそ400名の参加をいただきました。

開会式典につづき、基調講演として立命館大学産業社会学部の津止正敏教授から「介護者支援と専門職の役割－介護者モデルの変容から－」というテーマで講演をいただきました。男性介護者に着目し、在宅における「主たる介護者」の変遷を辿りつつ、「ケアメンのイベント」や「男性の介護体験記」などの話を交え、介護者モデルの歴史の変容の説明をいただきました。そして、介護を排除して成り立つ暮らしや働き方ではなく、介護のある暮らしや働き方を社会の標準にしていく必要があると締めくくられました。国の方針として「介護離職ゼロ」という目標が出された直後ということもあり、正にタイムリーな内容の講演となりました。

午後からの分科会では、「個に焦点をあてたケアの取り組み」、「養護・軽費・ケアハウス・安心サポートハウスの現状と課題」、「人材の確保・定着・育成」、「地域における取組と今後必要とされるサービス」、「今後の社会福祉法人に求められるもの」といったテーマ別にわかれて日頃の実践や研究の発表がなされ、熱心に意見交換などが行われました。

2025年に向けて、これからの10年で我々が何をしなければいけないのか、改めて考えることのできた学会となりました。



ファーストステップ研修



チームリーダー研修

「人材育成・研修委員会」の取り組み

人材育成・研修委員会
委員長 **井上 章**
(京都市本能)

今年度ははじめの市老協組織全体の見直しにより、新たに「人材育成・研修委員会」が発足しました。これまでの市老協での研修は、各委員会などがそれぞれ独自に企画・開催していたため、いつ開催するのか、どんな内容なのか、誰が講師なのかといったことを市老協全体として把握する部署・担当がないために、同じ年度に同じような内容で同じ講師を招いた研修を開催していたといったケースがありました。

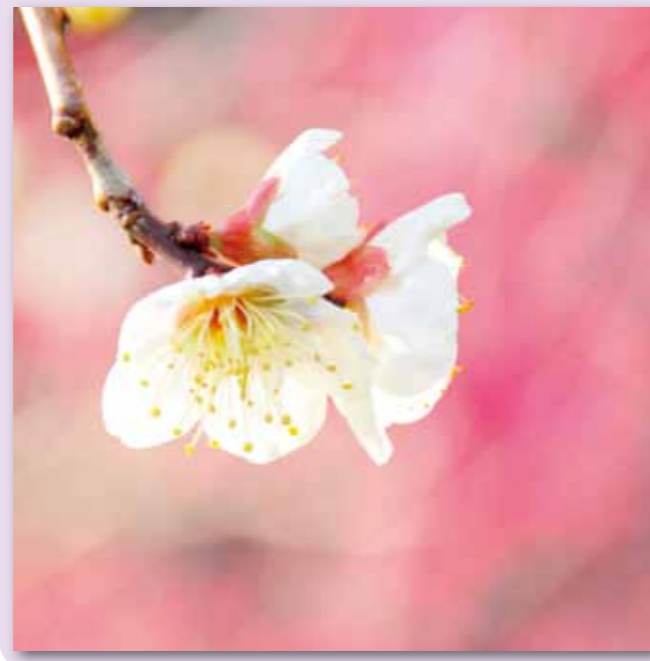
また、ファーストステップ研修やリーダー研修、施設長研修など様々な階層別の研修が開催されてきましたが、これらも同様に、全体的に把握するところがないことと、そもそも市老協として、階層別に行われていた研修を体系化できていなかったために、まずはどの研修を受けていただき、それが終われば次はどの研修を受けていただくのがよいのかといった標準的な受講パターンをご提示できておりませんでした。こういった様々な課題やお声、ご要望にお応えするために、当委員会が発足し、現在活動しているところです。

当委員会には、「企画管理部会」と「研修実践部会」があり、「企画管理部会」では研修全体の掌握と企画、体系化を担っています。今年は管理職研修の実施に向けてニーズ調査を踏まえ、その内容を検討しているところです。「研修実践部会」では既に行われています研修の企画から運営までをトータルで担っています。中でもファーストステップ研修は年13回、リーダー養成研修は年5回の開催と回数も多く、ご担当いただいております施設長の皆様には大変なご負担をお掛けしておりますが、その分、成果も目に見えて出てきているというお声をお聞きしております。

また、昨年は11月27日に行われました「第13回京都老人福祉学会」においても当委員会が担当し、部会長・副部会長の施設長の皆様には準備からお世話になったところです。この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

来年度は市老協独自の階層別研修制度を構築し、会員施設（法人）のキャリアパスにおける研修制度の一翼を担えるようになればと考えております。

研修開催にあたりましては、会員施設の皆様のご理解・ご協力、そして何よりもご参加が不可欠です。今後どうぞ、よろしくお願いいたします。



三好明夫教授記念講演

「介護の日」を通して

11月11日（水）が「介護の日」と定められた平成20年度から京都市の共催をいただき、記念事業として、フォーラム、広報活動など毎年開催しており、今年で第8回を迎えました。

今年度は、例年どおりの記念フォーラム、広報活動に加え、新たに「いい日、いい日写真展」を行いました。この写真展は、市老協会員施設を対象としたフォトコンテストで応募のあった写真から21枚をパネルにして、ひと・まち交流館 京都の1階とゼスト御池市役所前広場の2か所で同時展示を行いました。多くの方に見ていただき、施設でのご利用者の生活が伝わった、介護の現場がこんなに明るいとは知らなかった、介護の現場が笑顔を生み出す場であることが伝わってくるなど多くのご意見をいただきました。来年も楽しみにしているというお言葉もいただきましたので、是非、計画していきたいと思っております。

また、広報活動として、四条河原町でハートメッセンジャー、市老協役員等総計55名によりティッシュを配り「介護の日」をPRしました。徐々に「介護の日」も認知されてきているとは思いますが、まだまだPR不足を実感しました。

「介護の日」のメインイベントである記念フォーラムは、ひと・まち交流館 京都の大会議室で、194名の参加を得て開催しました。

まず、山岸孝啓市老協会長の挨拶のあと、記念講演として、京都ノートルダム女子大学三好明夫教授による「介護ってすばらしい!! ～介護する心と介護される心～」と題して講演をいただきました。

内容について、非常に良かった、心を込めて丁寧に



ハートメッセンジャー実践報告

人材確保・定着部会
部会長 **森田 誠**
(塔南の園)

関わるのが大事であると感じた、すごく前向きになったなどの意見が多数寄せられ、参加した学生にはこれからの心構えを、現職には自分を見つめ直す良い機会になったのではないかと思います。

引き続き、シンポジウムは、石井大輔施設長（ビハラ十条）をコーディネーターに、また、ハートメッセンジャーの板倉宣之（京都厚生園デイサービスセンター）さんと坂本益民（養護老人ホーム船岡寮）さんをお迎えし、「介護における苦悩や素晴らしさを通じて、介護についての熱い思いを伝える」と題してシンポジウムを行いました。

発表者の2人は少し緊張はあったと思いますが、石井施設長が上手くリードして進めていただきました。

その中で、介護の仕事の素晴らしさを感じた、やりがいを感じた、現場の生の声が聴けて良かった、視覚障害者施設・デイサービスの方の苦勞も知ることができたなど大変良かったというご意見をいただきました。

次に、シンガーソングライターの堀内圭三さんとハートメッセンジャーコーラス隊による「花は咲く」「ハートメッセンジャー」の2曲の合唱が行われました。14名のハートメッセンジャーは、にしがも舟山庵の井篠さんに歌唱指導をいただき、計4回の練習を重ね本番に臨み、見事、練習の成果を発揮し、素晴らしい合唱を披露してくれました。感動したという意見を多くいただき、今後とも色々な場面で活躍の機会が得ることができればと思います。

また、門川大作京都市長もご公務ご多忙の中、このフォーラムに駆けつけてくださり、非常に熱い激励を



門川大作京都市長より応援メッセージ



河合 悟副会長 閉会挨拶

いただきました。門川大作京都市長におかれましては、最初のフォーラムから欠かさずご出席いただきご挨拶をいただいております。

最後に河合悟副会長の閉会の挨拶で今年も無事終了することができましたが、この日は、76名のハートメッセンジャーが忙しい中、参加していただき、それぞれがいろいろな役割を果たしてくれました。

また、その所属の施設長様におかれましても、お忙しい中、開催趣旨をご理解いただきハートメッセンジャーを派遣くださりまして厚く感謝申し上げます。

介護の日を通して、改めて市老協の結束力の強さを実感できた一日でした。

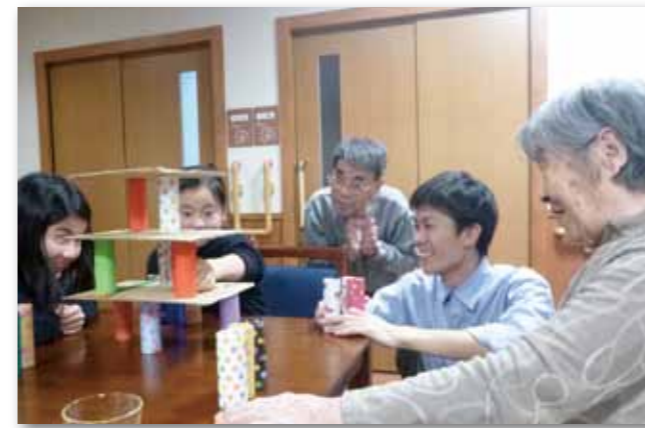
ありがとうございました。



「いい日、いい日」写真展



堀内圭三さんとハートメッセンジャーコーラス隊



次世代担い手育成事業の小学生の訪問
私たちから子どもたちに
介護や福祉の魅力を発信

経営・人材確保委員会
担当副会長 河合 悟
(サウスヴィレッジ向島)

「子どもたちに介護の仕事の魅力を知らせてほしい。正しく理解してほしい」そんな思いから、昨年9～10月にかけて、正副会長・理事が市内の小学校・中学校の校長会にうかがいました。そして「市老協といたしましては、京都市保健福祉局長寿社会部介護保険課のご支援もいただきながら、今後の福祉介護人材の確保・定着を最重要課題として位置付け、今年度から新たな部会を設けて具体的な取り組みを検討しているところだ。

これまで各校におかれましては様々な福祉教育の取り組みと共に、一部の会員施設への訪問や利用者との交流をしていただいているところですが、将来の少子高齢社会を担う子どもたちに対して、次のような福祉教育をより一層推進していただきますようお願い申し上げます。」との依頼をいたしました。

その活動内容としては

- 1 車いす体験、高齢者福祉の現状や課題、認知症高齢者の理解を深めるなどの特別学習
- 2 ハートメッセンジャーによる特別授業や交流
- 3 高齢者福祉施設の見学及び利用者との交流
- 4 「次世代担い手育成事業」への取り組み

をあげております。人材育成も私たちが担う大切な仕事の一つです。子どもたちにまずは介護の仕事について知ってもらう事が、正しい理解や将来の職業選択の一つにつながると思います。ありがたいことに、右京区の学校から早速依頼がありました。

会員施設様におかれましても、地域の小中学校との交流や講義依頼の承諾、ハートメッセンジャーの派遣等のご協力をよろしく願います。未来と一緒に働く仲間を求めて・・・地道な活動ですが、まずは動きだしましょう。



渡邊 聡 OTによる定例学習会

新しいデイ部会の始まり

居宅ケア委員会
担当副会長 川田 雅之
(春日丘センター)

今年度から、居宅ケア委員会「デイサービス部会」は、新しい活動を始めています。それは、「京都市老人福祉施設協議会」と「京都市デイサービスセンター協議会」が昨年9月に発展的に統合し、「デイサービス部会」に京都市社会福祉協議会の17ヶ所の事業所を新しい仲間として迎えたためです。

私達は、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることを支えるデイサービスであり、特に、利用者の希望に応え、喜びをもって生きていくことを創造していくことを目指したいと考えています。そのためにも、デイサービス部会で研鑽を重ねていきたいと思っておりますので、これからもご理解とご協力の程宜しくお願い致します。

=== 編集後記 ===

市老協第39号「新春号」はいかがでしたでしょうか。平成27年度から広報・啓発委員を仰せつかり、不慣れな故まわりの方々に大変助けて頂きながら発行に漕ぎ着けています。この場をお借りして、ご協力いただいた皆さまへ御礼申し上げます。今後、より紙面の充実を図るため皆さまからご意見ご感想をお聞かせいただけると嬉しく思います。是非お寄せください。お待ちしております。

そらの木 伊藤禎哉

一般社団法人 京都市老人福祉施設協議会
TEL(075)354-8743・FAX(075)343-6270